

陳 玉霞「CGM による大学と地域社会の連携および双方向活性化」

大阪産業大学大学院経営・流通学研究科博士論文（営博第 13 号）、2013 年 3 月。

○ 博士学位論文の要旨

本論文は、大学と地域社会が双方向的活性化に貢献できるように、ソーシャルメディアの CGM（Consumer Generated Media：消費者生成発信型メディア）による大学と地域社会の連携および双方向的な活性化ができる連携モデルである「学・地クラスタ連携モデル」を提案する。このモデルをもとに、CGM を介することで、新しいコミュニケーションの創造の可能性と有効性を論じる。

序論では、本研究の題である「CGM による大学と地域社会の連携および双方向活性化」状況の置かれている現場の実態、インターネットの高速化、社会のグローバル化、CGM の多様化等の背景を説明し、関連の先行研究の知見について記述・整理した上で、本研究の目的、研究方法、論文構成について説明する。

I 章では、本研究に使用する様々なキーワードの定義を説明する。特に、「学・地クラスタ連携モデル」の拡張的なモデル定義が特徴である。

II 章では、本研究で提案する「学・地クラスタ連携モデル」のインターネット上のプラットフォームになりつつある CGM について分析を行い、CGM サービスが大学と地域社会の活性化のために有効かつ必要であることを検証する。

III 章では、本研究で検証する「学・地クラスタ連携モデル」のリアリティ社会上のプラットフォーム・議論土台である大学教育と地域社会について、分析・考察を行い、大学教育と地域社会において、CGM による「学・地クラスタ連携モデル」の必要性を明らかにする。

IV 章では、「学・地クラスタ連携モデル」のフレームワーク、システム構造、利用シナリオ、知識創造プロセス、情報共有プロセス、および提案モデルにおける情報流通の方法について述べる。

V 章では、隣接行列をもちいて提案モデルの実現可能性と有用性を示す。

VI 章では、ソーシャルメディアによるモデルの考察と評価を行う。

VII 章では、ソーシャルメディアをベースにしたモデルの事例評価を行う。従来の産学官連携モデルと比べて経済団体や市民個人を平等なパートナーとして連携範囲を広げることができ、ソーシャルグラフ効果によるネットワーク効果に格段の違いがあることを示している。従来の「E-quality 仮想大学」の有効性とコミュニケーション機能の限界を示し、その限界に対してソーシャルメディアを用いる提案モデルの優位性を示している。地域社会の消費者や店舗の密着度を向上させ、消費者の利便性を向上させることができること、行政との連携等、幅広い視点によって、提案モデルのポテンシャルの高さを評価している。

結論では、大学教育と地域社会の双方向活性化において、CGM による「学・地クラスタ連携モデル」の有用性と有効性および今後の課題と展望をまとめる。

○ 論文審査結果の要旨

本論文は「大学と地域社会の連携および双方向活性化」のために、CGM を組み込んだ「学・地クラスタ連携モデル」を提案し、このモデルをもとに、CGM を介することで、新しいコミュニケーション

ンの創造の可能性と有効性を論じており、論理的な面から可能性と有効性および有用性を研究した結果についてまとめたものであり、得られた結果は次のとおりである。

1. 大阪産業大学大学院経営・流通学研究科「博士（経営学）[課程博士]論文の審査方法および手続き」に関する内規においては、学会報告1編の公表および学術論文1編（経営論集などの紀要は2編）以上の採録が義務づけられている。申請者は、大阪産業大学経営論集に3件の採録（内、1件は採録決定であり発行予定扱いとなっている）があり、学会報告を1件行っており、論文件数に関する条件を満たしている。

「CGMによる学・地クラスタ連携モデルの提案及び一考察」『経営論集』13巻第2・3合併号、pp.57-86, 2012年6月。

「ソーシャルメディアの集合知効果及び企業利用についての一考察」『経営論集』13巻第2・3合併号、pp.87-112, 2012年6月。

「ソーシャルメディアをベースにした新「地・学連携モデル」の評価」『経営論集』14巻2号、pp.71-95, 2013年3月。

2. 申請者は、学力試験の条件（語学、専門試験）を合格している。

3. 本論文は「学・地クラスタ連携モデル」の有用性として、事例を用いた評価および議論に学術的な深みを加えることが課題であったが、モデルの評価を改善することにより、従来との有用性、優位性、有効性について、差分を明らかにすることができ、経営論集採録決定となったことで、論文としての課題を解決することができた。

（審査委員会の所見）

本論文は、最近のトピックスであるCGM（ソーシャルメディアとも呼ぶ）を大学と地域社会の連携に役立てるという新しい観点からのアプローチであり、学術上、實際上寄与するところが少なくない。

「学・地クラスタ連携モデル」定義と従来の違いを明確化し、概念モデル、ビジネスモデル（利用シナリオ）を示し、隣接行列をつかいCGMがシステムと連携した際のコミュニケーションの有用性の証明を行い、事例を使ったモデル評価を行っている。提案モデルの有用性として、事例を用いた評価および議論に学術的な深みを加えることができている。また、経営論集の採録が3件になったことにより、研究者としての技量も研究科の合格水準に達しているものと判断し、合格と判定する。